

## 湖西市立小中学校再編方針（令和 5 年 5 月）【概要版】

## 5 本市の望ましい適正配置について（p.13）

小規模校では、児童生徒数の減少が続いていくと、1 学年 15 人を下回る可能性もあります。どのようなメリット・デメリットが生じるのかという点について整理しました。

## 【1 学年 15 人前後や 10 人前後の規模になった場合のメリット】

- ・教員が、授業の中で一人一人の学習状況を把握しやすいため、その子にあったアドバイスをし、学習内容の理解につながる。
- ・係活動、委員会活動、運動会などで、一人一人が役割を自覚して、行動し、達成感を味わうことで、責任をもって取り組むことの大切さやありのままの自分を肯定する感覚が育まれる。
- ・人数が少ないことで、お互いの性格や長所、短所を理解しやすく、お互いを認め合い、思いやりながら、穏やかな雰囲気の中で学校生活を送ることができる。

## 【1 学年 15 人前後や 10 人前後の規模になった場合のデメリット】

- ・人間関係が固定化し、級友に対する見方・考え方が固定化してしまったり、集団での関わり方が決まってしまうりする可能性が高くなる。
- ・切磋琢磨して自分を成長させていこうとする意欲が醸成されにくい。
- ・体育のゲームやボール運動で、集団対集団での競い合いや攻防の中で、動きや作戦を工夫する上で制約が生じる。
- ・授業では、多様な考えにふれる機会が減り、他者の考えを参考にして、自分の考えを見直し、まとめ直す経験が少なくなる。
- ・同級生の良い考えや見本となる発表にふれて、刺激を受け、自分もやってみたい、できるようになりたいと思う機会が減る。
- ・中学生は、心身の発達上の変化が著しく、また、生徒の能力・適性、興味・関心等の多様化が一層進展する時期であり、自我意識が高まるとともに個性が多様化してくる時期でもある。抽象的、論理的思考が発達するとともに社会性なども発達してくる。その時期に少人数で学校生活を送ることで、多様な考え方から己を成長させていく機会が不十分になる可能性がある。

これらのメリット・デメリットを勘案すると、将来的に 1 学級 15 人以下となった場合、デメリットの方が大きくなるのではないかと考えます。

## 7 これからの東小学校、知波田小学校、湖西中学校について

## (2) 児童生徒数の推移について（p.20）

東小学校、知波田小学校の児童数の推移を整理すると、平成 25 年度には、1 学年 35 人前後だった規模が、平成 30 年度には、30 人前後、令和 4 年度に 25 人前後になっています。今後も、減少が続いていくことが予想されています。令和 8 年度には知波田小学校の入学生が 10 人を下回ることが予想されています。令和 11 年度には、1 学年 15 人前後に、近い将来には 10 人前後になっていく可能性もあります。

東小	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計	1学年平均
H25	38	40	28	42	33	39	220	36.7
H26	32	39	40	27	41	33	212	35.3
H27	33	33	39	42	27	41	215	35.8
H28	28	33	32	39	42	27	201	33.5
H29	27	27	35	32	38	43	202	33.7
H30	28	26	28	34	29	39	184	30.7
R 1	28	28	27	28	34	29	174	29.0
R 2	22	29	27	27	28	34	167	27.8
R 3	30	19	29	25	29	27	159	26.5
R 4	18	29	20	29	25	29	150	25.0
R 5	21	18	30	20	30	25	144	24.0
R 6	22(1)	21(1)	18(1)	30(1)	20(1)	30(1)	141	23.5
R 7	16(1)	22(1)	21(1)	18(1)	30(1)	20(1)	127	21.2
R 8	14(1)	16(1)	22(1)	21(1)	18(1)	30(1)	121	20.2
R 9	16(1)	14(1)	16(1)	22(1)	21(1)	18(1)	107	17.8
R 1 0	16(1)	16(1)	14(1)	16(1)	22(1)	21(1)	105	17.5
R 1 1	14(1)	16(1)	16(1)	14(1)	16(1)	22(1)	98	16.3

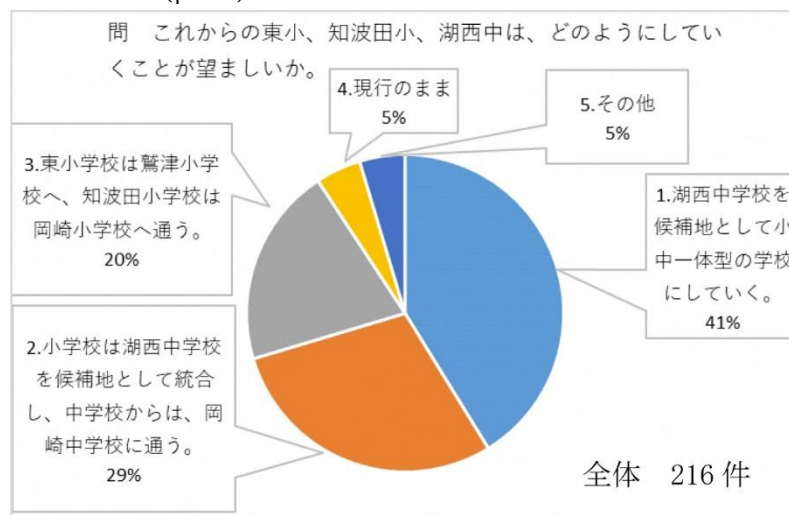
知波田小	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計	1学年平均
H25	19	31	38	35	33	36	192	32.0
H26	35	20	33	41	35	32	196	32.7
H27	18	35	19	33	40	35	180	30.0
H28	33	18	35	19	34	40	179	29.8
H29	29	33	17	35	19	34	167	27.8
H30	21	28	32	16	35	19	151	25.2
R 1	17	20	28	33	16	36	150	25.0
R 2	26	17	20	28	32	16	139	23.2
R 3	19	26	17	19	28	32	141	23.5
R 4	30	19	26	18	19	29	141	23.5
R 5	16	29	19	26	18	20	128	21.3
R 6	25(1)	16(1)	29(1)	19(1)	26(1)	18(1)	133	22.2
R 7	23(1)	25(1)	16(1)	29(1)	19(1)	26(1)	138	23.0
R 8	7(1)	23(1)	25(1)	16(1)	29(1)	19(1)	119	19.8
R 9	15(1)	7(1)	23(1)	25(1)	16(1)	29(1)	115	19.2
R 1 0	14(1)	15(1)	7(1)	23(1)	25(1)	16(1)	100	16.7
R 1 1	10(1)	14(1)	15(1)	7(1)	23(1)	25(1)	94	15.7

### (3) 子育て世代のアンケート結果について (p.21)

令和5年3月に小学校入学前、小学生のお子さんをお持ちの子育て世代の方を対象としたアンケートを実施しました。今後の方向性として選択項目として以下の4つの案を示しました。

第1案「湖西中学校を候補地として小中一体型の学校になる案」、第2案「小学校は湖西中学校を候補地として統合し、中学校からは、岡崎中学校に通う案」、第3案「東小学校は鷺津小学校へ、知波田小学校は岡崎小学校に通う案」、第4案「その他」。

216件（対象家庭373世帯）の回答があり、「これからの東小、知波田小、湖西中は、どのようにしていくことが望ましいのか」について、第1案が41%、第2案が29%、第3案が20%となりました。



### (4) 今後の方向性について (p.22)

アンケート結果からも、「小学校は湖西中学校を候補地として統合する」ことが、北部地区のこれからの子供たちの教育環境として最も優れていると考えます。中学校について、「小中一体型にする」のか、「岡崎中学校に通う」のかは、さらに検討が必要であると考えます。